

- 1 頭垂る稲の動脈かき切らむ
- 2 鳥鳥鳥びっしり寄り添ふ十二月
- 3 仔鼠をそっと握らば腸（わた）温し
- 4 節分会吾が心根の鬼痛し
- 5 腕時計月が齧りて時歪む
- 6 良質の毛皮となりしいのちかな
- 7 黄ばみたる前歯によつきり冬ねづみ
- 8 瞳孔を開ひて閉ぢて兎ら遊ぶ
- 9 脳表を虹が過（かす）らば多幸福感
- 10 時空をば歪めて遊ぶ金魚かな
- 11 縦長の猫の屍骸や兎ら無邪気
- 12 月曜日もろびと扁（ひら）たくなりけり
- 13 曲がり角猫の尻尾が残りけり
- 14 喧嘩せり白菊紅菊女の死
- 15 曇天に圧されて歩く冬日かな
- 16 冬の蝶女の口より出で来たる
- 17 凍天に緋色の太陽炸裂す
- 18 竈の焰祖母の眼恐く照らしたり
- 19 翔ぶことの叶はぬ空を冬の虹
- 20 桃色の肉球愛し春日和
- 21 鳥の首三ツ並びて冬来たる
- 22 過ぎ去りし清濁凡て星の煌（きら）
- 23 冬短日慌てて紅引く牝月（をんなづき）
- 24 狂ひ雲前歯剥き出し山脈（やま）喰らふ
- 25 日溜りで二本の脚が彷徨へり
- 26 だらだらと血が滴れり曼珠沙華
- 27 凍てつく夜野鼠凍る五分前
- 28 獣鳥苔蟲茸風倒木
- 29 しあはせをひとふさぐだされこのざるに
- 30 木の動脈どくどくどくどく人間喰はば
- 31 たまゆらの波のいのちや雑魚の骨
- 32 半死ニの毛蟲は吾に非ざるも
- 33 轍路泣く骨や肉やのせつなさに
- 34 蜜柑喰ふ妻の口もと蟲の如
- 35 いつまでも黙ってゐるなあをぞらよ
- 36 牝牛が怒れる乳を放射せり
- 37 父子ふたり鹿殺したる絆かな
- 38 雨の音グラスの中に残りけり
- 39 雨の音心音に似て微睡みぬ
- 40 太陽を裸婦で覆ひて原爆忌
- 41 冬の蝶轍路を延々舐めにけり
- 42 朝焼けを裸婦と観てゐる床温し
- 43 雨の夜半宿るを知らぬ仔猫啼く
- 44 草餅を四ツの口が頬張れり
- 45 あをぞらを見つめし猫や脚三本
- 46 枯れてなを紅の残像曼珠沙華
- 47 一片の麴麴に宿りし仏かな
- 48 現世はコスモスの花揺れる間に間に
- 49 行き止まり右も左も日曜日
- 50 鳩時計ときおり恐く嗤ひたり

## 特別賞

園田源二郎 (060)

- 51 ドーナツの真ん中に在る小宇宙
- 52 世の中に女の増えて月紅紅(あかあか)
- 53 祖母煮込むカレーライスと土着信仰
- 54 秘密基地猫を殺しし児らの翳
- 55 暗室に叔父の残像時歪む
- 56 まやかしのあをぞら消へて墓に雪
- 57 もふ何も言ふことは無し女晴れ
- 58 死に損なひ残花腐りし冬椿
- 59 野仏が撒き散らしたる微笑かな
- 60 死に体の野良猫(のら)一匹分冬すすむ
- 61 でろでろと舌の貌の雲ばかり
- 62 鉄仮面落つれば冬の銀河なり
- 63 女の眼緋色の空を粉碎す
- 64 眠る月つひに野犬の視野に入り
- 65 変貌す蛾はひときれの更紗かな
- 66 母の脳少し死にたり冬短日
- 67 柩車過ぐコスモスの影揺れてゐる
- 68 さよならにさよならをして北極星
- 69 蛾の飛翔サイケデリックに闇を裂く
- 70 死にゆく人間にさへもヒエラルキイ
- 71 水槽に鯰一体座敷牢
- 72 俄か雨ピンク映画の看板に
- 73 カーテンの影の間に間に蛾の舞踏
- 74 冬天に煙草の焰(ひ)すら死ニ火山
- 75 厳冬夜襟元ぬくし猫一枚
- 76 月死にてぽっかり空ひた丸ひとつ
- 77 鯉のぼり兄、姉となり早十年
- 78 ありのまま晒け出せづくに曼珠沙華
- 79 木犀の残り香消さむ家近し
- 80 古時計サデイスティックに時刻む
- 81 軋軋(きしきし)と冬の桜は耐へる骨
- 82 母嗤ふ百八番目の煩惱ゆえ
- 83 沈黙す野薔薇赦さじ霜の刑
- 84 蜜柑の香部屋中満ち満ち八ツの掌
- 85 没日すでに群青の犬が啣へけり
- 86 メロドラマわたしに遠し煎餅かぢる
- 87 冬の蝶日溜り嬉し小躍りす
- 88 君がふと洩らしし独白蝉時雨
- 89 蝶蝶の翔びまねしたる児の未来
- 90 太陽が隠蔽す暗黒の生態系
- 91 北枕夜半に林檎の匂ひ満つ
- 92 天の歯牙すこしちぢみて冬ざるる
- 93 冬の首ごろりと落ちて揚羽発つ
- 94 寂しさは小鳥に結わへて春へ遣る
- 95 冬短日髭の白髪を抜ひてゐる
- 96 秘密裏にきみを抱くなり曼珠沙華
- 97 古時計ねづみの睡りは永し短し
- 98 睡る伽藍木佛(きぶつ)の歓喜や暴発す
- 99 わたしの忌黒蟲こぞりて念仏念仏
- 100 冬の蝶女体に潜みて春日待つ

